

立川断層とは



立川断層の位置（地震調査研究推進本部のホームページ http://www.jishin.go.jp/main/chousa/03aug_tachikawa/index.htm より）★はトレンチ調査地点

立川断層帯は、名栗断層と立川断層から構成され、埼玉県飯能市から東京都青梅市、立川市を経て府中市に至る、長さ 33 km、北西走向の断層帯です。

立川断層帯の主部をなす立川断層は、北西走向で長さは 20km 余、首都圏にあってごく近い将来に活動する恐れのある活断層として注視されていますが、その活動履歴（過去に地震を起こした時期）はもとより活断層としての性格についても未だ不明な点が多々残されています。

巨大トレンチ調査

東京大学地震研究所は、法政大学・首都大学東京・信州大学と共同で、文部科学省『立川断層帯の重点的調査観測』の一環として、長さ約 250m、深さ約 10m という、これまで類を見ない大規模な巨大トレンチ調査（榎トレンチ）を実施中です。

立川断層がつくった変位構造の全体、すなわち、主断層帯をその変位に関係した変形構造全体とともに捉え、さらに活動の繰り返し性の把握をも狙った新たな試みです。

立川段丘面上に掘削されたトレンチの壁面には、段丘面構成層の立川礫層が広範囲に露出し、これを変位させている明瞭な断層が認められます。この地質断層は、従来立川断層が形成した変動崖とされてきた小崖地形付近に露出しましたが、ほぼ垂直の断層面をもち、その走向も小崖の崖線とは斜交していて一致しません。露出した断層構造について詳細の観察・記載を試み、その変位特性や活動履歴について検討を進めています。



トレンチ掘削現場の様子



8.3 丹那断層の例（深度 7m）